

之名、齊人謂之天瓜、象形也、雷敷炮炙論、以圓者爲栝、長者爲樓、亦出牽強、但分雌雄、可也、其根作粉、潔白如雪、故謂之天花粉、

〔東雅^十四〕栝樓カラスウリ 倭名鈔に兼名苑註を引て、栝樓一名瓠、カラスウリといふと註せ

り、毛詩爾雅本草等の註に依るに、栝樓は天瓜也、瓠瓠は爾雅の藤姑、一名王瓜也、卽是二物也、兼名

苑註、栝樓一名瓠、瓠と云ひしは、二物をもて一物とするに似たり、瓠瓠を呼びて、カラスウリとす

るは、此物一名老鴉瓜といふに因れるなり、天瓜王瓜同じく是れ蔓生にして、其葉も又相似たれ

ば、我國の俗共に呼でカラスウリと云ひしと見えたり、此物もと果臝の類にあらざれども、名づ

けてウリといひぬれば、こゝに准ず、老鴉瓜の名、始て本草圖經に見えて、李東璧が本草には、王

〔物類稱呼^三植〕栝萋からす瓜 伊勢及紀伊熊野邊にてうりねと云、越前にてくそうりといふ、土

佐にてぐどうじと云、其根を同國に肥前にてぶうりといふ、和産二三種有、其核玉づきの

〔重修本草綱目啓蒙^{十四}〕栝樓 キカラスウリニ王瓜ニ混ズル故、クリウリ越前 ミヅカラスウ

リ同上 カルリ伯州 ゴウリ筑前、肥前 ゴリ薩州 ウシゴウリ筑後 カラスコンビ豫州 ウ

シコベ豊後 ヤマウリカヅラ泉州 ニガウリ城州、貴船 ムベウリ同上 コビノコ土州、根名 烏塊

和方書實
名○中略

春舊根ヨリ苗ヲ生ズ、蔓甚長ク葉互生ス、形チ圓ニシテ五七尖アリ、胡瓜葉ニ似テ毛茸ナク光リ

アリ、王瓜葉ノ厚クシテ毛刺アルニ異ナリ、一葉ゴトニ數鬚アリテ物ニ纏フ、五月葉間ニ白花ヲ

開ク、本ハ筒子、末ハ圓ニ濶ク五出ニシテ、ウツマナデシコ洛陽花ノ如シ、瓣末細ク分レテ亂絲ノ如シ、花後瓜ヲ結

ブ、王瓜ヨリ大ニシテ微短生ハ青ク熟スレバ黄色、王瓜ノ形小ニシテ、熟シテ赤色ナルニ異ナリ、

瓜ヲ用テ醬藏鹽藏シ食フベシ、瓜中ニ黄肉アリ、味甘シ、肉中ニ子アリ、卽栝樓子ナリ、○中略栝樓ノ

根ハ、土中ニ長ク蔓延シ、葛根ノ如シ、或ハ連珠シテ瓜ノ如ク白色ナリ、採乾シテ用ユ、切レバ内ニ